

研究課題（テーマ）	看護学部における数学・情報学関連講義・演習科目の準備と実践およびそれらの改善		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	工学部教養教育センター	教授	戸田 晃一
	工学部教養教育センター	教授	石森 勇次
	工学部教養教育センター	准教授	杉山 弘晃
	工学部教養教育センター	講師	土井 一幸
研究結果の概要			
<p><目的></p> <p>工学部教養教育センターとして、他大学看護学系学部・学科や看護専門学校のカリキュラムを調査し、県立大工学部でのこれまでの工学部における教育経験を考慮して、看護学部（看護学科）の教養科目のカリキュラムおよびシラバスを作成した。</p> <p>実際の看護学部での初年次教育（数学・情報系講義）における教育実践による教育効果を検証し、問題点を洗い出し、対策を講じることで次年度以降の教育に繋げていくことを、本プロジェクトの目的とする。</p> <p><2020年度の活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2018年度に作成した看護学部の数学系講義の授業計画を、2019年度に引き続き、2020年度にも実践した。とくに今年度はほとんど遠隔授業であったので、昨年度に準備していたオンデマンド形式の講義資料（数学系講義）の実践をすることができた。 ● キャンパス間（富山市と射水市）には物理的距離の問題がある。工学部教養教育センター所属の教員は射水キャンパス内に教員室や研究室があるので、通常は富山キャンパスには担当講義の前後しか滞在していない。講義の質問を含む学習相談などにどのように対応するかが、早急に解決すべき大きな問題の一つであった。そこでオンラインでの質疑応答や学習支援の可能性を探った。 ● 高校の教育現場で実際に使われている教科書や参考図書などの現物を収集し、内容を詳細に検討した。 ● 富山県立大学紀要（第31巻, 2021年3月）掲載論文にて、本プログラムで得られた情報（の一部ではあるが）を発表し、本学の全教員に情報提供をおこなった。本項目は当初の予定通り行うことができたが、今後も機会があれば積極的に続けていく。 			
今後の展開			
<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年度に実施した「看護学部の数学系講義（遠隔授業形式）」の学生の受講態度や成績状況などを精査し、2021年度以降の講義や学習支援などに活かしていく。多様な入試により入学してきた一年次生が、高校から大学への環境変化にスムーズに適応し、<u>より効果的な初年次教育（数学・情報系講義）</u>を受けることが期待される。 ● 本プログラムにおいて、オンラインでの学習支援の可能性を探った。ここでの検討内容は、そのまま遠隔授業に転用可能である。 			